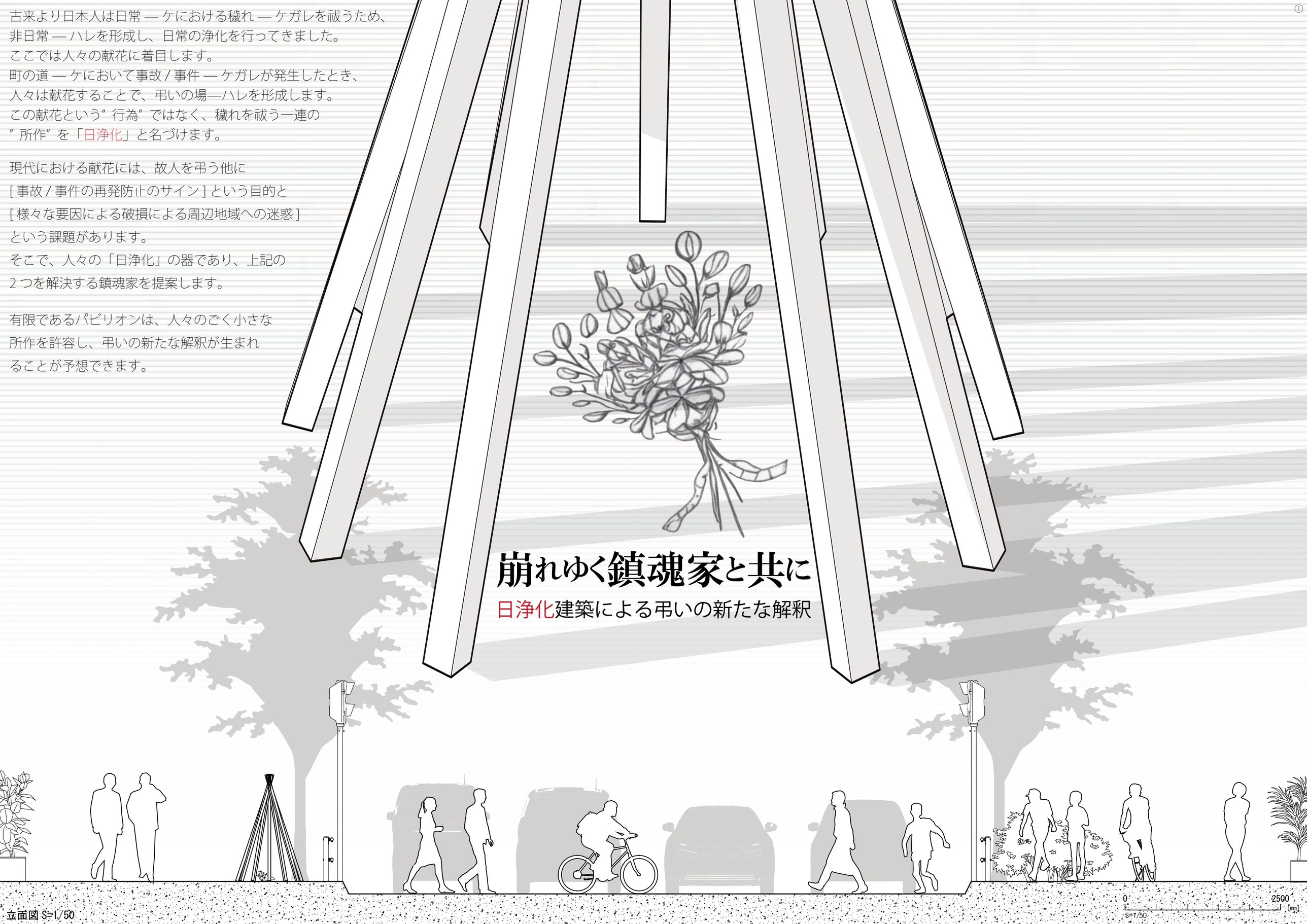
古来より日本人は日常 — ケにおける穢れ — ケガレを祓うため、
非日常 — ハレを形成し、日常の浄化を行ってきました。
ここでは人々の献花に着目します。
町の道 — ケにおいて事故 / 事件 — ケガレが発生したとき、
人々は献花することで、弔いの場—ハレを形成します。
この献花という" 行為" ではなく、穢れを祓う一連の
" 所作" を「日浄化」と名づけます。

現代における献花には、故人を弔う他に
[事故 / 事件の再発防止のサイン] という目的と
[様々な要因による破損による周辺地域への迷惑]
という課題があります。
そこで、人々の「日浄化」の器であり、上記の
2 つを解決する鎮魂家を提案します。

有限であるパビリオンは、人々のごく小さな
所作を許容し、弔いの新たな解釈が生まれ
ることが予想できます。